

平成 20 年度

病害虫発生予報第 2 号

平成 20 年 5 月 29 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス（平成 20 年度農業危害防止運動について）	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 普通作物

イネでは、いもち病の発生時期は平年並、発生量はやや多と予想されます。早期発見に努め、予防散布を行いましょ。イネクロカメムシ、イネミズゾウムシの発生量は平年並と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、黒点病の発生量は平年並、かいよう病（中晩柑類）、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少、そうか病、かいよう病（温州みかん）の発生量は少と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は平年並と予想されますが、今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。ハダニ類の発生量はやや少と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量はやや多と予想されます。今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。

果樹カメムシ類の発生量は、平年並と予想されますが、ナシでは飛来を確認したら、防除を実施してください。

3) 茶

チャでは、炭疽病の発生量はやや多と予想されます。今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は平年並、カンザワハダニ、チャノホソガの発生量はやや少、もち病の発生量は少と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は、やや多と予想されるので注意してください。うどんこ病の発生量は平年並と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は少と予想されます。

アブラナ科では、コナガの発生量は少と予想されます。

5) 花卉

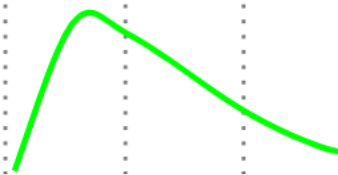
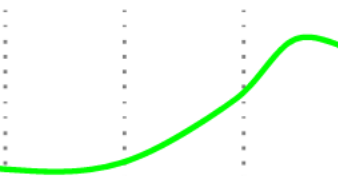
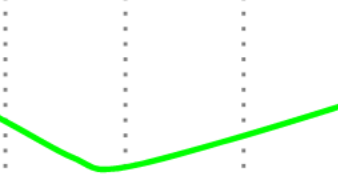
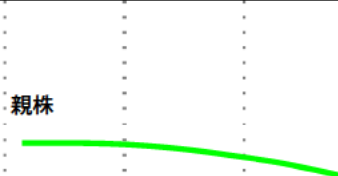
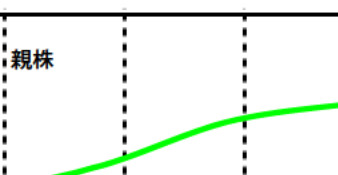
ツツジ類では、褐斑病、ツツジグンバイの発生量はやや少と予想されます。

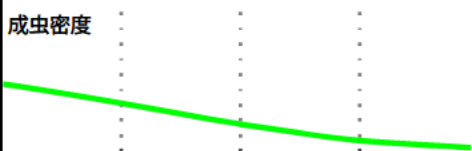
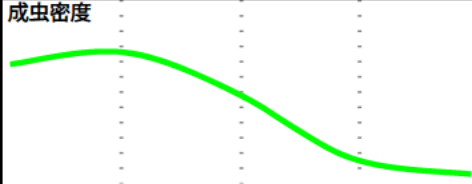
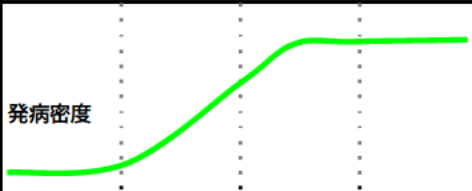
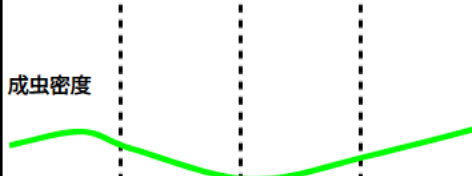
2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			発生時期	発生量		要防除圃場率	5月		6月		
							下旬	上旬	中旬		下旬
イネ	葉いもち	—	やや多	小	普通	置苗で発生 ↓		本田で発生 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 補植用置苗は、いもち病の発生源となるので、速やかに除去・枯死させてください。 発病が認められた圃場では治療効果のある薬剤が有効です。 	
	イネクロカメムシ	—	平年並	小	普通		成虫誘殺数 ↓		被害量 ↓	<ol style="list-style-type: none"> 近年被害が増加傾向にあり、多発すれば減収を招きます。 常発するので前年発生した圃場では特に注意が必要になります。 越冬成虫は圃場周囲から侵入するため畦に近い株から被害がみられます。 	
	イネミズゾウムシ	—	平年並	小	低		成虫誘殺数 ↓			<ol style="list-style-type: none"> 成虫の発生が平均で株当たり 0.5 頭以上みられる圃場では幼虫による被害が予想されますので早目に水面施用剤を散布してください。 	
カンキツ	そうか病	—	少	小	低	葉・枝 ↓		果実 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 梅雨末期にかけて、果実へ感染します。 6月以降は新芽や幼果の病斑から感染するので、早期の予防散布が重要です。 	
	黒点病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 生理落果盛期～後期に予防散布を実施してください。 薬剤散布後、積算で 200mm 以上の降雨があったら、次の防除を実施してください。 枯枝が伝染源ですので、樹冠内や圃場内の枯枝除去を行い、病原菌密度を下げるようにしてください。 	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州少 中晩柑やや少	小 小	低 普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 例年発生する圃場では、幼果への感染防止対策として、予防散布を実施してください。 2) 甘夏等の中晩柑類では6月から10月中下旬まで、果実への感染が起こります。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は一部で多発している圃場があります。発生に注意して、薬剤散布を計画してください。 2) マシン油乳剤等を有効に利用して下さい。その他のハダニ剤は同一系統薬剤使用はなるべく年1回としてください。 3) ミカンハダニが増加する前に、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 例年被害の多い圃場では、6月上旬～中旬に防除し、その後は30日間隔を目安に次回の防除を行ってください。
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病葉は発見次第取り除き、圃場外へ持ち出して処分してください。 2) 薬剤散布にあたっては、同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。
	ハダニ類	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 防除の目安は成虫の1葉当たり寄生虫数が1～2頭の時です。 2) 殺ダニ剤は抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項							
						5月	6月										
						下旬	上旬	中旬	下旬								
ブドウ	べと病	—	やや多	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 雨が続くと急激に発生が多くなるので、降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏に病斑を認めた時は直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害花穂は、発見次第取り除いて、圃場外に持ち出し処分してください。 4) 薬剤散布にあたっては同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。 							
						果樹共通	カメムシ類	—	平年並		中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 圃場を観察して、初期の飛来を確認します。夜温が極端に高くなる日などには活発に飛翔します。街灯などで飛来の兆候を観察してください。 2) ナシ等では飛来を確認したら防除を実施してください。 3) 飛来が確認されない圃場では、防除の必要はありません。
													チャ	炭疽病	—	やや多	
もち病	—	少	小	低						<ol style="list-style-type: none"> 1) 雨が続く場合は、山間部では発生が多くなります。 2) 二番茶芽の萌芽期から1葉開葉期の薬剤散布が効果的です。 							
					カンザワハダニ	—	やや少	小	普通								<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は、地域や圃場によって発生の差が大きく異なります。 2) 多発すると防除が困難なので、発生初期の防除が重要です。 3) 葉裏で繁殖します。ていねいに散布してください。 4) 薬剤抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			平年比	程度		5月	6月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
チャ	チャノホソガ	—	やや少	小	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 二番茶では成虫発生ピークと2葉期が合致する場合がありますので、三角巻葉が発生する可能性が高くなります。 2) 防除適期は、脱皮阻害剤では卵期、その他の剤では幼虫孵化直後の葉裏潜伏期です。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は、地域や圃場によって発生の差が見られます。 2) 二番茶芽の2葉期までに防除が必要です。 3) 成虫よりも幼虫による加害の方が大きな被害になります。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	低	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は、地域や圃場によって発生の差が大きく異なります。 2) 二番茶芽の2葉期までに防除が必要です。 3) 葉裏に生息しているため、ていねいに散布してください。
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	中	普通	親株					<ol style="list-style-type: none"> 1) 今後1か月は感染しやすい状況です。 2) 薬剤散布は、予防に重点をおき、発病を認めたときは広がらないようにすみやかに防除をしてください。 3) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布してください。
	炭疽病	—	やや多	中	普通	親株					<ol style="list-style-type: none"> 1) 灌水は、水滴が跳ね返り莖葉に当たらないように行ってください（やさしく手灌水、チューブ灌水）。 2) これから梅雨・高温期にかけて降雨に注意しながら防除を徹底してください。 3) 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにし、畝やベンチの両側からも散布してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	5月			6月	
								下旬	上旬		中旬	下旬
ネギ	ネギコガ	—	少	小	低	成虫密度					1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため発生の初期から防除が効果的です。	
	コナガ	—	少	小	低	成虫密度					1) 近年、大きな被害は見られませんが、年間 10~12 世代も発生し、繁殖力が旺盛でアブラナ科野菜の重要害虫です。 2) 薬剤抵抗性の発達はやい虫なので、同一系統及び同一薬剤の連用をさけ、系統を替えてローテーション散布を行ってください。	
ツツジ類	褐斑病	—	やや少	小	普通	発病密度					1) 伝播は雨とともに飛散したり、昆虫などの体に付着したりして行われます。 2) 枝葉が過繁茂や密生の状態で、枝葉の間の風通しが悪く湿度が高い場合には発生しやすいので注意してください。	
	ツツジゲンバイ	—	やや少	小	普通	成虫密度					1) 年間の発生回数が多いので、早期発見に努めてください。 2) 成虫・幼虫とも葉の裏面に寄生し生息しているので、葉の裏面に薬剤が十分かかるように防除してください。	

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	平年並	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) BLASTAM(5月25日現在)による感染好適日は未出現 3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、置苗での発生率0%(平年0.3%)と平年並の傾向 4) 一般圃場では、発生量は無 考察： 気象条件を考慮して、発生時期は平年並、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 前年の発生圃場率は3.4%(平年3.2%)と平年並のため成虫越冬量も平年並と推測 2) 予察灯(松阪市・5月25日現在)では、未飛来 考察： 予想成虫越冬量が平年並のため、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(水田・松阪市・5月第4半旬まで)では、誘殺数は19頭(5年平均46.4頭)と少の傾向 2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、被害株率は37.8%(平年37.6%)と平年並、株当たり虫数は0.07頭(平年0.07頭)と平年並 3) 一般圃場では、発生量は無~少(概して少) 考察： 誘殺数、一般圃場では少ですが、被害株率、株当たり虫数を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 県予察圃(5月中旬)では、発病葉率29.5%(平年22.8%)、発病果率1.7%(平年2.5%)と平年並 3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、病斑は未確認 4) 一般圃場では、発生量は少 考察： 急増する要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は少と考えます。</p>
	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 前年(10月下旬)の県予察圃(無防除圃)では、果実発病度80.5(平年78.1)と平年並 3) 冬期の落葉は少なく(-)、感染源となる枯れ枝は平年並(±)の状況 考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	-	温州 少 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 県予察圃における新葉での初発は、5月14日(平年5月7日)と遅 (-) 3) 県予察圃(5月中旬)では、発病葉率0.2%(平年5.9%)と少 (-) 4) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉における平均発病率は温州みかん、中晩柑ともに0%と少の傾向 (-) 5) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は温州みかんで少、中晩柑類でやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(-) 2) 県予察圃(5月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で1.1頭(平年25.5頭)、防除区で0頭(平年1.6頭)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉における平均寄生葉率は8.9%(平年7.2%)と多、1葉当平均寄生虫数は0.17頭(平年0.60頭)と平年並 (±) 4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察： 現状の発生量は少と考えますが、今後の気象条件を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(-) 2) 県予察圃(5月中旬)では、粘着トラップへの誘殺は未確認(平年0.31) (-) 3) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察： 現状の発生量は少と考えますが、今後の気象条件を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均発病葉率0.6%(平年0.1%)と一部地域で多い傾向 (+) 3) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概してやや少) (-)</p> <p>考察： 今後の気象条件を勘案して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(-) 2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生葉率は0%(平年0.2%)と少、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0.0頭)と少 (-) 3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察： 今後の気象条件を勘案しても、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ブドウ	べと病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病は未確認(平年0%) 3) 一般圃場では、一部で発病を確認 考察： 気象要因を重視すると、今後の増加を勘案して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町：4月1日～5月20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ27頭(平年714頭)と少、ツヤアオカメムシ736頭(平年2,261頭)と少 2) 予察灯(畑・松阪市：4月1日～5月25日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ310頭(平年179頭)と多い傾向(+)、ツヤアオカメムシ67頭(平年19頭)と多い傾向(+) 3) フェロモントラップ(4月1日～5月24日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で205頭(平年212頭)と平年並、中間地(津市白山町二本木)で649頭(平年281頭)とやや多、平坦地(松阪市嬉野川北町)で42頭(平年46頭)と平年並 4) 巡回調査圃場(5月第3週)では、飛来は未確認 5) 一般圃場では、少～やや多(概してやや少) 考察： 今後、ナシ等への飛来が始まると考えられ、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 前年(10月中旬)の一般圃場では、発生量は平年並 3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病は未確認 4) 一般圃場では、発生量は平年並 考察： 今後の気象条件を勘案して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	もち病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 前年(10月中旬)の一般圃場では、発生量は少～平年並(概して少) 3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病は未確認 4) 一般圃場では、発生量は少 考察： 大きな増減の要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(-)予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、寄生葉率は1.0%(平年5.0%)で少、1葉当寄生虫数は0.11頭(平年0.23頭)で少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生葉率は1.5%(平年6.5%)、平均寄生虫数は0.02頭(平年0.20頭)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状発生は少と考えますが、気象条件による今後の増加を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月第1~5月第3半旬)では、誘殺数は731頭(平年1,126)とやや少の傾向 (-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第1~5月第3半旬)では、誘殺数は10頭(平年6頭)と平年並 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生虫数は1.2頭(平年1.7頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第1~5月第3半旬)では、誘殺数は1,870頭(平年1,225頭)と平年並 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生虫数は17.1頭(平年9.4頭)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(-)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(±)予想 (±)</p> <p>2) 一般圃場での発生量は、少~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 大きな増減要因はないので、発生量は平年並と考えます。</p>
	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+)予想 (+)</p> <p>考察: 気象要因により予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ネギ	ネギコガ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月5半旬~5月4半旬)では、誘殺数は80頭(平年168頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、被害葉率0.0%(平年0.11%)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 大きな増減要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
野菜 共通	コナガ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月5半旬~5月4半旬)では、誘殺数は60頭(平年462頭)と少 (-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 大きな増減要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
ツツジ 類	褐斑病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月23日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、新梢発病葉率0%(平年0.0%)、旧枝発病葉率2.2%(過去3年平均17.8%)とやや少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 大きな増減要因がなく、今後の増加を勘案しても予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ツツジグンバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(5月第3週)では、ヒラドツツジ、サツキとも成虫、幼虫は未確認(平年値:ヒラドツツジ成虫0.5頭・幼虫0.6頭、サツキ成虫0.2頭・幼虫0.5頭)と少の傾向 (-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は平年並にやや少 (±)</p> <p>考察: 現状はやや少の状況ですが、特に大きな増減要因がないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「平成 20 年度農薬危害防止運動について」

1) 農薬危害防止運動とは

農薬を正しく使うことは非常に大切なことです。安全に適正に使用すること、きちんと保管管理することは、農産物の安全確保や安定生産に貢献します。一方すべての人の健康や周辺の生活環境の保全にもつながります。そこで、国や都道府県等は、毎年農薬の使用機会が多くなる時期に農薬危害防止運動を実施しています。

2) 三重県の取組み

最近農薬によるトラブル、事故が増え、その対策が急務となっています。そのため三重県では、農作物等に病気や虫が発生しやすくなって農薬を使用する機会が多くなる 6 月 1 日～8 月 31 日の期間、農薬危害防止運動に取り組みます。

次のことに留意して農薬の適正な使用、保管管理をすることにより農薬使用による事故を防止しましょう。

農薬ラベルをよく読んで使用基準を守り使用しましょう。

農薬が散布場所以外に飛散しないよう、周りの住民および環境には十分配慮しましょう。

住宅地等で使用する場合には、周りの住民に事前に知らせましょう。

事故防止のため、農薬の保管管理を徹底し、使用時にはマスクなど防護類を必ず着用しましょう。

3) 農薬の事故と被害

下表は全国で平成 14～18 年に発生した農薬事故の原因別の発生件数と人数です。事故原因で多かったのは、保管管理不良、泥酔等による誤飲誤食、マスク、メガネ、服装等装備不十分、強風中や風下での散布等本人の不注意、農薬使用後の作業管理不良等でした。これによると、依然として農薬による事故がおこっていることがわかります。このような事故を防ぐためにも、より一層農薬の適正使用や保管に努めることが必要です。

農薬の使用にともなう事故及び被害の原因別発生状況

原因	合計 件数(人数)
マスク、メガネ、服装等装備不十分	16 (16)
強風中や風下での散布等本人の不注意	20 (20)
長時間散布や不健康状態での散布	3 (3)
保管管理不良、泥酔等による誤飲誤食	29 (35)
農薬使用後の作業管理不良	14 (90)
散布農薬のドリフトによるもの	6 (6)
体質的アレルギーによるもの	1 (1)
薬液運搬中の容器破損、転倒等	1 (15)
防除器の故障、操作ミスによるもの	2 (2)
その他	11 (12)
原因不明	25 (26)
合計	128 (226)

平成14年～18年の5年間に発生した合計

農林水産省農薬コーナー「農薬の使用に伴う事故及び被害の発生状況

況の平成 18 年度分を掲載しました」より作成

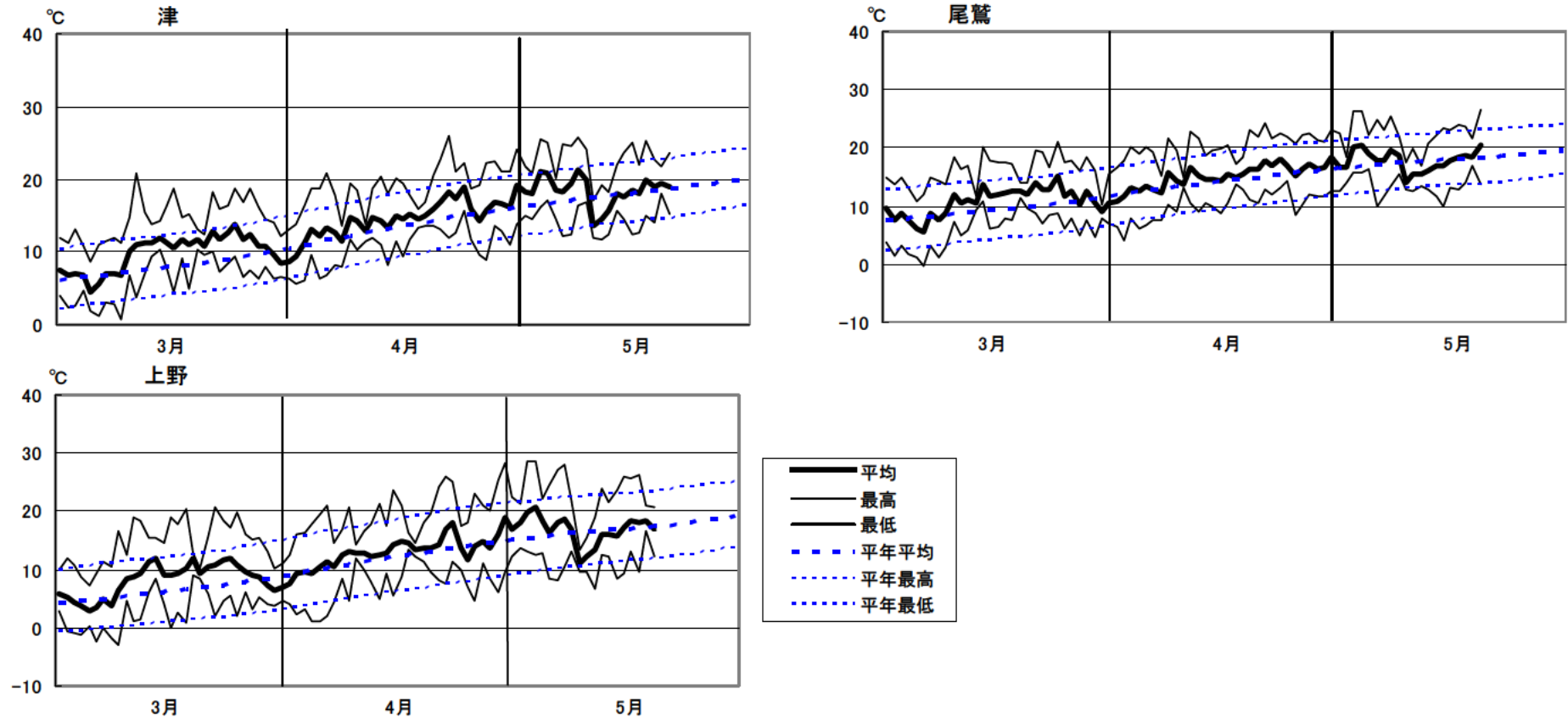
6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 20 年 5 月 23 日 名古屋地方気象台発表)

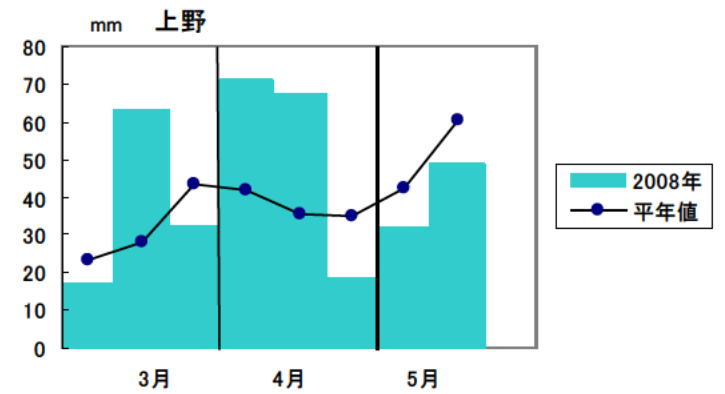
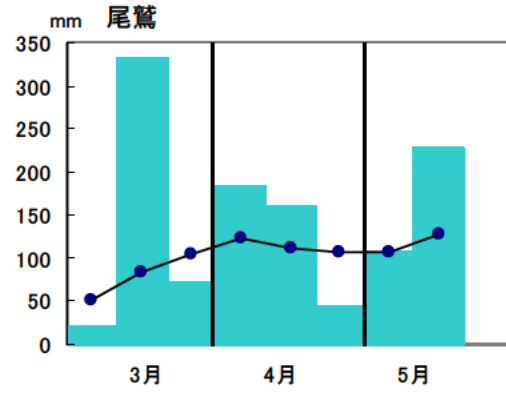
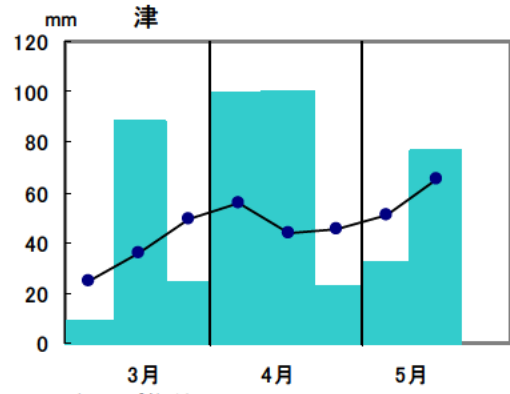
東海地方の向こう 1 か月は、気圧の谷や前線の影響で平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう

1 週目 (5 月 24 日～30 日)	期間のはじめと終わりは、気圧の谷や前線の影響で雨の降る日がある見込みです。期間の中頃は高気圧に覆われて晴れる日があるでしょう	晴れ日数の平年値 約 4 日
2 週目 (5 月 31 日～6 月 6 日)	気圧の谷や前線の影響で、平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。	同 約 4 日
3～4 週目 (6 月 7 日～20 日)	気圧の谷や前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	同 約 6 日

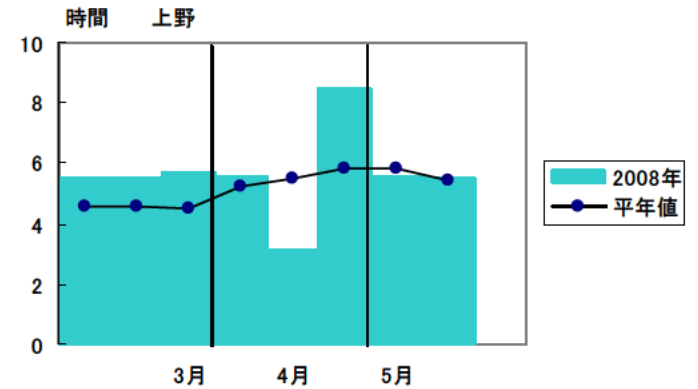
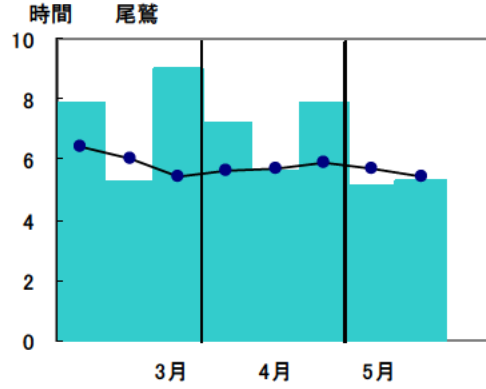
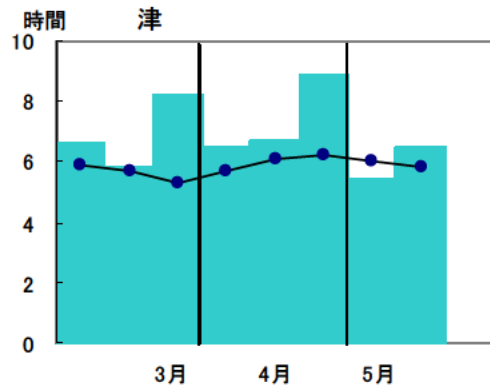
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



7. おしらせ（前回と異なる項目にはNEWの印があります）

1) NEW 利用方法

この病害虫発生予報は、ほぼ定期的に発表されます。本年度の予定は次のよう
です。

第1回 4月24日（木） 第2回 5月29日（木）

第3回 6月26日（木） 第4回 7月24日（木）

第6回 10月23日（木） 第5回 8月28日（木）

第7回 3月19日（木）

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必
ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてくださ
い。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表され
る警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記
のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

2) NEW メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲
載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの
配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

3) NEW 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時
はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登
録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

4) NEW 三重県病害虫防除の手引き

病害虫防除所ホームページに「三重県病害虫防除の手引き」を5月30日に掲
載します。

5) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の利用方法を説明をした「病害虫発生予報利用の手引き」を平成20年
度用に更新しました。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h20yohotebiki_.pdf